

「避難生活支援リーダー／サポーター」研修について（令和４年度～）

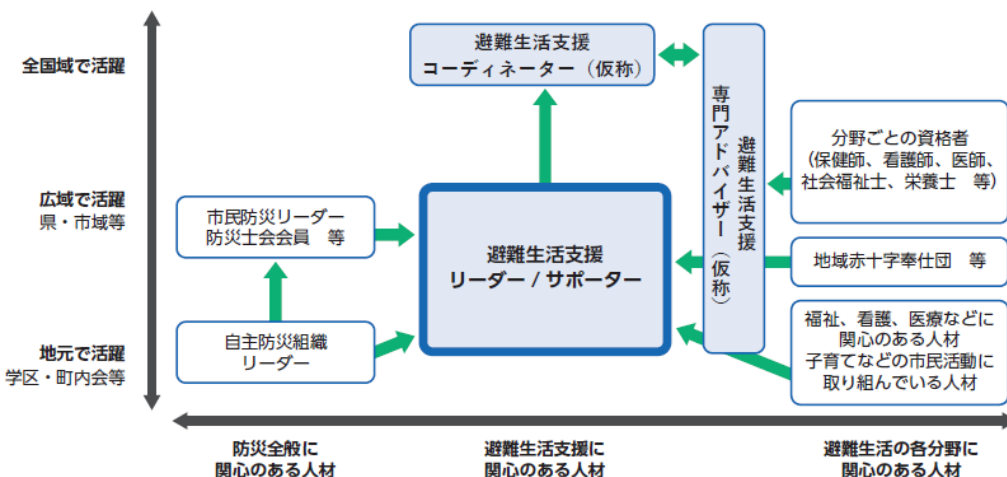
（「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」の構築）

資料 2



- 内閣府では、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、**避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和４年度から開始。**
- こうした取組を通じて地域のボランティア人材の発掘・育成を図り、発災時には行政職員や支援者等と連携し、**良好な避難生活環境の確保を図ることにより、「災害関連死・ゼロ」の実現を目指す。**

避難生活支援リーダー／サポーターとは



- 「避難生活支援リーダー／サポーター」とは、避難所運営の基本的スキルを習得し、**自治体や支援者等とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材**

- 当該人材を各地域で発掘・育成するために、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」を全国で開催

⇒ これ以外にも、運営に関わる担い手と連携した環境改善に率先して取り組む人材「避難生活支援コーディネーター（仮称）」や、医療・保健・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言をするとともに、リーダー／サポーター、コーディネーターと連携できる人材である「避難生活支援専門アドバイザー（仮称）」を育成するための仕組み・研修プログラムも、引き続き、関係者や各分野のニーズ等も踏まえて再検討

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和６年度）

研修プログラム	・ オンデマンド講座（事前視聴） ・ 基礎講義、グループ討議、演習 など、研修期間２日間
研修実施地区	・ 嘉麻市（福岡県） ・ 館林市（群馬県） ・ 八戸市（青森県） ・ 箕輪町（長野県） ・ 倉敷市（岡山県） の合計５地区



研修テキスト



グループ討議



避難所の環境改善演習

令和６年度スケジュール

R6年度前半（４～１０月）

- R6年度研修テキスト・オンデマンドの微修正
- 研修実施自治体等との調整

R6年度後半（１１～３月）

- 研修の実施（５地区）
- 研修アンケート結果等の分析
- 次年度に向けた改善検討

- 来年度の研修について、自治体・関係団体等での開催を促すための検討（内閣府の役割・研修主催自治体等に対する支援の検討）
- コーディネーター研修等の位置付け・枠組みの検討

- 名簿登録者の情報更新、データベース、マッチングの仕組み検討・構築



○ 令和4、5年度は、各県に公募を行った上で、以下11県（市町村）を選定、実施した。

【注】「※」記載のある県は、昨年度（令和4年度）に続いて2年連続で研修実施
左から実施日順。R5は能登半島地震の影響により4県が開催中止。

令和4年度	都道府県名	岡山県		群馬県		大阪府		愛知県		長野県	
	実施市町村	矢掛町		前橋市		吹田市		美浜町		上田市	
	実施日	11/23(水・祝) 1/14(土) 15(日)		12/18(日) 24(土) 25(土)		2/4(土) 25(土) 26(日)		2/5(日) 18(土) 19(日)		2/11(土) 3/4(土) 5(日)	
	市町村の人口規模	1万人		33万人 (中核市)		37万人 (中核市)		2万人		15万人	

令和5年度	都道府県名	広島県		岡山県※		熊本県		岐阜県		静岡県		愛知県※	
	実施市町村	広島市		瀬戸内市		八代市		関市		島田市		岡崎市	
	実施日	6/17(土) 18(日)		10/28(土) 29(日)		10/14(土) 15(日)		11/11(土) 12(日)		12/16(土) 17(日)		1/20(土) 21(日)	
	市町村の人口規模	120万人 (政令市)		3.6万人		12万人		8.5万人		10万人		38万人 (中核市)	



開催年度	開催地域	受講者数	修了者数 (2日間以上参加者)	名簿登録者数
令和4年度	群馬県 前橋市	55	53	45
	長野県 上田市	70	57	52
	愛知県 美浜町	32	29	28
	大阪府 吹田市	42	34	31
	岡山県 矢掛町	60	46	36
令和5年度	広島県 広島市	37	35	27
	熊本県 八代市	39	37	29
	岡山県 瀬戸内市	49	42	35
	岐阜県 関市	37	34	32
	静岡県 島田市	42	40	39
	愛知県 岡崎市	52	50	49
	計	515	457	403

受講者のフォローアップ（メールマガジンの発行）



避難生活支援リーダー/サポーター研修受講者のフォローアップとして、令和4年度、令和5年度の名簿登録者に向けて、メールマガジンの配信を行った。「避難生活支援」に関する情報提供を定期的に行うことで、受講者がカリキュラムをふりかえり、理解度を高めるための契機にした。

配信結果

～【5分で学べる！】避難生活支援リーダー/サポーター防災解説～

	配信日	コラム執筆	配信数	開封率	クリック率
第1号	12月19日	○浦野 愛（特定非営利活動法人レスキューストックヤード／常務理事） ○辛嶋 友香里（ピースボート災害支援センター／現地コーディネーター）	263	53.61%	9.03%
第2号	1月15日	○栗田 暢之 氏（特定非営利活動法人レスキューストックヤード／代表理事、特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）／代表理事）	286	61.28%	18.44%
第3号	2月15日	○村上 威夫 氏（内閣府 防災担当 参事官（普及啓発・連携担当）） ○小山内 世喜子 氏（青森県男女共同参画センター／館長、男女共同参画地域みらいねっと／代表理事）	311	54.98%	11.11%
第4号	3月15日	○佐藤 純 氏（特定非営利活動法人 Hand Over Japan 代表理事） ○小柳 由佳 氏（日本赤十字社長野県支部参事） ○北村 育美 氏（福島大学地域未来デザインセンター客員研究員） ○水野 直樹 氏（特定非営利活動法人ソナエトコ 理事長）	311	57.60%	6.6%
臨時号	4月1日	○高智穂 さくら 氏（特定非営利活動法人ソナエトコ／理事） ○細谷 真紀子 氏（ゲンサイデイズ／代表・山形県自主防災アドバイザー） ○甘中 繁雄 氏（特定非営利活動法人首都圏防災士連絡会／理事）	342	60.23%	9.71%
第5号	4月26日	○椿 佳代 氏（災害ボランティアコーディネーターなごや、エンジェルランプ／代表） ○藤井 文香 氏（看護師・日進災害ボランティアコーディネーターの会）	386	61.66%	15.13%
第6号	5月15日	○佐々木 裕子 氏（愛知医科大学看護学部／准教授、特定非営利法人レスキューストックヤード／専門職パートナー）	386	56.89%	11.21%
第7号	6月15日	○高橋 良太 氏（社会福祉法人全国社会福祉協議会／地域福祉部長、全国ボランティア・市民活動振興センター長） ○中野 篤 氏（特定非営利活動法人 日本防災士機構（認定NPO）総務課／課長）	390	57.47%	16.14%
第8号	7月15日	○浦野 愛（特定非営利活動法人レスキューストックヤード／常務理事） ○三谷 潤二郎 氏（倉敷市教育委員会生涯学習施設再編整備室、倉敷市立自然史博物館／主幹）	390	58.55%	9.29%
第9号	8月19日	○杉山 徹 氏（静岡県危機管理情報課／課長代理） ○小山内 世喜子 氏（青森県男女共同参画センター／館長、男女共同参画地域みらいねっと／代表理事）	390	55.98%	12.73%

配信内容

- ・ 知ったク！防災クイズ（最後の解説に研修テキストの該当ページを案内）
- ・ 受講者へのメッセージコラム
- ・ 令和5年度実施避難生活支援リーダー/サポーター研修の実施の様子
- ・ 令和6年度避難生活支援リーダー/サポーター研修の実施予定
- ・ 内閣府主催の防災イベントの案内
- ・ 研修テキスト、オンデマンド動画の掲載先 など



第3号以降、避難生活支援アドバイザー（仮称）OJT派遣の実施後に、派遣者からの報告を兼ねたコラムを発信している（月に一回の配信にこだわらず、臨時号も配信）

【受講者の声】

- ・ 大変参考になり、防災仲間と内容を共有した。機会を見て是非、フォローアップ研修会などの開催をお願い出来ればと思っている
- ・ 災害関連の情報はありがたい

→メールマガジンを読んだ受講者から災害に関する質問なども事務局に寄せられている



○ 令和6年度は、各県に公募を行った上で、以下5県（市町村）を選定

【注】「※」記載のある県は、昨年度（令和5年度）に能登半島地震の影響で実施が中止となった地域

都道府県名	福岡県※	青森県	岡山県	長野県※	群馬県※
実施市町村	嘉麻市	八戸市	倉敷市	箕輪町	館林市
実施日	11/16(土)、 17(日)	12/14(土)、 15(日)	1/18(土)、 19(日)	2/1(土)、 2(日)	2/8(土)、 9(日)
会場	嘉穂総合体育館	八戸福祉体育館	水島緑地福田公園 体育館	松島 コミュニティセン ター	館林市立 第一小学校
市町村の人口規模	3.3万人	22万人	48万人	2.5万人	7.4万人

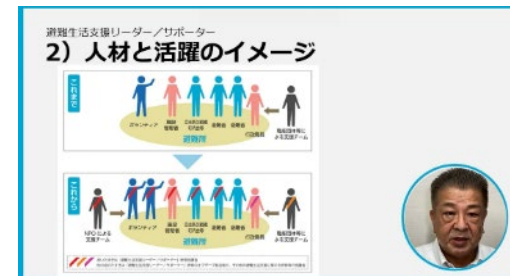
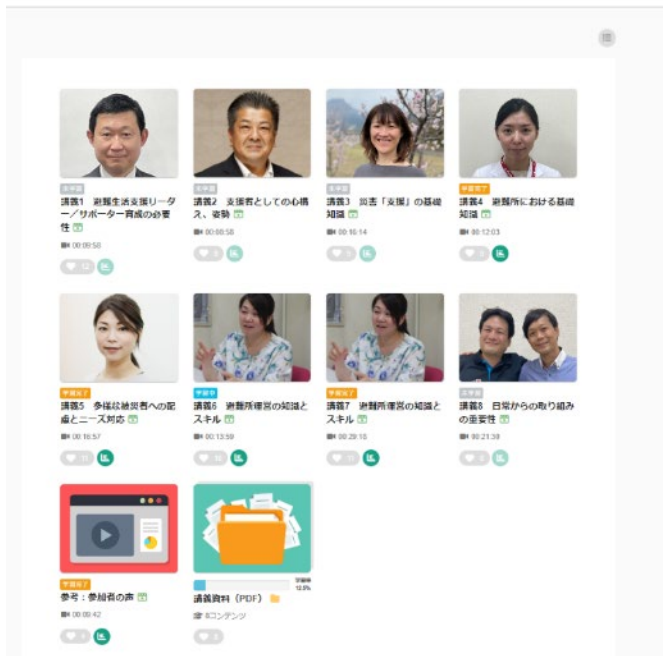
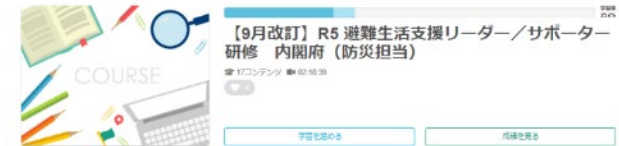
研修プログラム（１）



オンデマンド講座

	項目	講師
1	人材育成の必要性（10分）	村上威夫 氏（内閣府（防災担当）参事官）
2	支援者としての心構え、姿勢（9分） ※R6年度再収録	栗田暢之 氏 （全国災害ボランティア支援団体ネットワーク代表理事）
3	災害「支援」の基礎知識（16分）	阪本真由美 氏 （兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）
4	避難所における基礎知識（12分）	辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター） 関真由美 氏（日本赤十字社医療センター）
5	被災者への配慮とニーズ対応（16分）	辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター）
6	避難所運営の知識とスキル①（14分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード）
7	避難所運営の知識とスキル②（15分）	浦野愛 氏（レスキューストックヤード） 辛嶋友香里 氏（ピースポート災害支援センター）
8	日常からの取り組みの重要性（21分）	三谷潤二郎 氏（倉敷市人権推進室） 松岡武司 氏（倉敷市社会福祉協議会）
参考	参加者の声（10分）	中村文哉 氏（長野県危機管理部危機管理防災課防災係） 清水大樹 氏（上田市危機管理防災課危機管理防災担当） 清野百花 氏（上田市国保年金課） 竹内秀行 氏（上田市民生委員）

※パスワード付きWEBページ、DVD視聴、上映会視聴いずれかの方法で演習1日目までに受講



研修プログラム（２）



避難所運営研修 １日目

項目	内容
(１) 開会等 10:00～10:30	・開会挨拶／オリエンテーション
(２) 講義・演習① 10:30～12:00	○講義：多様な被災者の理解とその配慮 ・被災地・被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例 ○演習：被災者の心情や状況の理解 ・被災者と支援者のやり取りを再現した動画を紹介し、紹介された被災者の心情、困りごとを話し合う ・グループで検討した内容を発表・共有
12:00～13:00	昼食・休憩
(４) 講義・演習② 13:00～15:40	○講義：避難所の課題と生活環境の整備 ・避難所に必要なスペースとその機能 ・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点 ・運営に関わる担い手の理解 ○演習：避難所の課題と生活環境の整備 ・各スペースの巡回を行い、それぞれ「改善点」を話し合い、具体的な改善作業を行う ・各スペースの改善の発表と解説
(５) クロージング 15:40～16:00	・委員コメント／ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶



避難所運営研修 ２日目

項目	内容
(１) 講義・演習① 10:00～12:00	○講義：対人コミュニケーション ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本 ○演習：対人コミュニケーション ・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の３つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験する ・グループでの演習結果を全体で発表・共有
12:00～13:00	昼食・休憩
(２) 基礎講義② 13:00～15:40	○講義：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・課題・困りごとを解決するためのポイント ・被災者との情報共有、参加できる場づくり ○演習：運営の担い手との連携・協働の必要性 ・２日目午前中に検討した５つのケースについて、「被災者と一緒に取り組めること」「被災者以外の運営の担い手と一緒に取り組むこと」を話し合う ・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説
(５) クロージング 15:40～16:00	・講師からのコメント ・名簿登録／修了証授与 ・ふりかえり／アンケート記入 ・閉会挨拶





① 演習・グループでの話し合いが中心

- ・ 受講者同士が考え、意見を共有し、整理し、合意を得る一連の流れは、地域での活動や防災の取組でも活かすことができる
- ・ 実際の避難所等の災害現場で関係者が話し合う場面でも役立てることができる

② 様々なツールや手法を活用してイメージを深める

- ・ 動画などは啓発などにも活用できる。また、避難所再現スペースなどは実際の避難所開設訓練、運営訓練でも活用することができる

③ 答えがあるわけではなく、一緒に考える

- ・ 災害時の対応・置かれている状況に対して関わる人たちが、状況にあわせて判断、対応することに活かせる

様々な場面で
活用できる

実践に役立つ

誰でもできる

モデル研修では、小学生から高齢者まで幅広い年齢層、障害のある方も受講

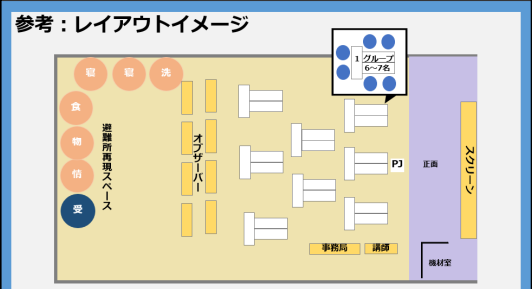
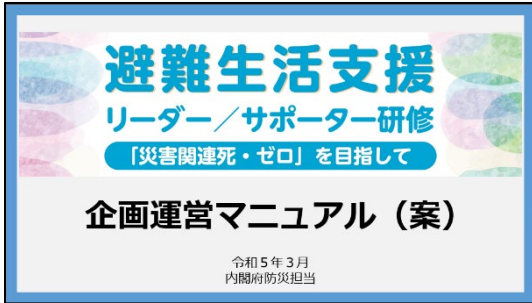


都道府県・市町村職員が研修を企画運営できるように、5つの手順で具体的な準備や進め方、ポイントなどをマニュアルとしてまとめる。
モデル研修では、受託事業者が担った役割、開催自治体に依頼した内容などを踏まえて、読みながら準備が進められるように整理する。

企画運営マニュアルの構成

- 1. 研修趣旨を理解する
- 2. 研修を企画する
- 3. 研修を準備する
- 4. 研修を運営する
- 5. 研修の事後処理

- 想定している人材育成像、プログラムの特徴などを記載
- 研修の位置づけ、企画内容を記載
- 受講者募集、会場手配、必要資機材の準備を記載
- 当日の設営、進行支援等の役割を記載
- 実施後に行うべき対応を記載



3-1. 受付

【設営する上での再現ポイント】

- 机には物が溢れ、避難者名簿は管理されず置きっぱなし。被災者に届くべき資料が詰まれている
- 机に「入所者受付」と提出があるが前重表示で見えにくい（来訪者受付、退所者受付がない）
- 「土足厳禁」の張り紙があるが、スペースには土・埃が溜まっている
- 靴（10足ほど※）は散乱している状態。所有者不明の傘、スリッパが受付前に散乱している※当日関係者の靴を使用する
- 受付スタッフ用に、机・椅子が1台配置されている（入所者の配置はなく、記入スペースや腰掛ける場所がない状況）

受付コーナーに必要な資機材リスト

品目	数量	備考	品目	数量	備考
受付票	1	実施地域のものを使用	クリップボード	1	
避難者名簿（紙ファイル）	1	「避難者名簿」とファイル表に記載	クリアファイル	3	
土砂・ほこり	1	避難者用など細かい物	卓上カレンダー	1	
時計	1		養生テープ	1	
スリッパ	3	施設のものがあれば追加	老眼鏡	1	
ビニール傘	2		表示（受付・土足禁止）	1	A4サイズ、机表に貼る
折りたたみ傘	2		机	1	
靴（土足）	10足程度	スタッフの土足を散乱させる	椅子	1	
筆記用具一式	1		ブルーシート	1	最低1.8m×1.8m